

生産基盤をサポート!

園芸施設共済



NOSAIからの お知らせ

農林水産省共通申請サービス(eMAFF)を利用して、自宅のPCやスマートフォンから園芸施設共済の加入申請・損害通知ができるようになりました。また損害通知の際、スマートフォン等で撮影した施設の画像を添付いただくことで、組合等の実施する現地確認を省略することができます。(施設が全損の場合に限ります。)
詳しくは、組合までお問い合わせください。

その他、お見積もり・加入のご相談についても、
最寄りの農業共済組合までお気軽にお問い合わせください。



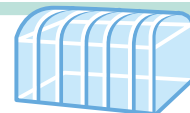
農業共済組合
茨城県農業共済組合連合会



加入できるもの

特定園芸施設

ガラス室、プラスチックハウス、
雨よけハウス、多目的ネットハウス



① 附 帯 施 設

暖房、かん水、換気施設、
カーテン装置、サイド巻上機（くるくる）など



② 施設内農作物 特定園芸施設内で栽培する野菜、花きなど ※加入できない作物もありますので、事前に組合にお問い合わせ下さい。

③ 撤 去 費 用

倒壊した園芸施設本体の撤去に要した費用

※撤去費用とは、施設本体（被覆材を除く）の撤去に要した金額が100万円を超える場合、または施設本体の損害割合が50%（ガラス室は35%）を超える場合に、支払対象となります。



④ 復 旧 費 用

園芸施設本体、附帯施設の復旧に要した費用

※復旧費用は、加入者の選択によりさらに大きな補償を受けることができます。



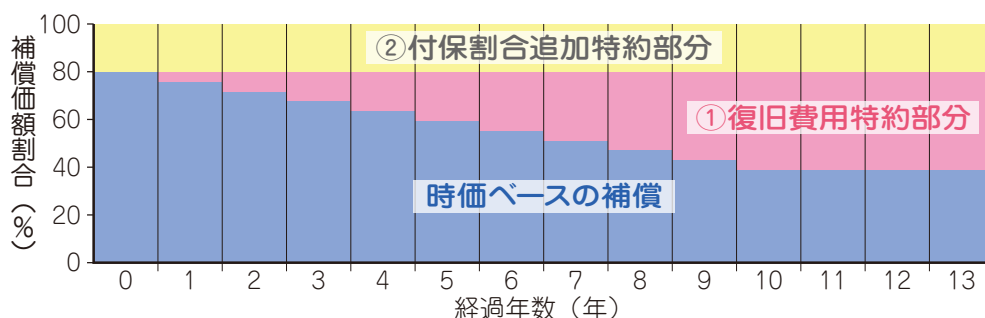
特定園芸施設に併せて、①附帯施設、②施設内農作物、③撤去費用、④復旧費用に加入することができます。

※加入できるのは農作物を栽培するためのハウスです。（育苗ハウスも含まれます。）

※複数の棟を所有している場合は、原則全棟加入になりますが、耐用年数を越えた園芸施設については加入者の希望で除くことができます。また、既に他保険への加入がある棟については、加入から除きます。

※撤去費用、復旧費用の加入は棟ごとに選択することができます。

パイプハウス の場合



① 復旧費用の補償価額は再建築価額の100%。

※復旧費用の加入者で、業者に頼らず、自力復旧した場合、材料費以外の労務費が請求書等に記載されていなかった場合は、労務費を加算して支払います。

※復旧費用の共済掛金については、全額加入者様の負担になります。

※復旧費用の共済金は、施設本体及び附帯施設を復旧した場合に支払います。

※被覆材の補償は対象外です。

② 付保割合追加特約の追加により、共済価額の最大100%までの補償が可能になります。

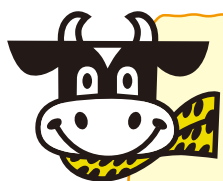
※付保割合追加特約の共済掛金については、全額加入者様の負担になります。

※施設内農作物に関しては、適用外になります。

※付保割合80%を選択した場合に付加することができます。

撤去費用および復旧費用における共済事故発生時のお願い

- 損害通知の際に、園芸施設撤去及び復旧計画書（実施予定日、実施内容、設計図、仕様書等）を提出していただきます。
- 撤去又は復旧を行ったときは、遅滞なく請求書又は領収書等を提出願います。
- 請求書又は領収書等は、原則災害の発生した日から1年以内に提出願います。



**施設は園芸施設共済、施設内農作物は収入保険と
セットでの加入をお勧めします。**

※収入保険は青色申告をしている農家が対象です。

※施設内農作物が収入保険のどちらか一つを選択して下さい。

※収入保険の詳細については組合にお問い合わせ下さい。

責任期間（補償期間）

● 農家負担掛金の払込みを受けた日の属する月の翌月の1日から原則1年間です。

※他の棟と始期を統一する場合は、1か月からの短期加入ができます。

※施設の設置期間が周年でない場合は、短期加入ができます。

※原則、申し込み後の変更はできないため、周年被覆での加入をお勧めします。

共済金額（補償額）

共済金額
（補償額）

=

共
済
価
額

特定園芸施設の時価額

附帯施設の時価額

施設内農作物の価額

撤去費用の価額

復旧費用の価額

×

付保割合
（補償割合）

最大で100%

※共済価額（補償価額）は加入時に、施設本体及び被覆材の種類、附帯施設の価額・施工費等、面積、経過年数、作物などをもとにして、1棟ごとに算出します。
※付保割合（補償割合）は、特定園芸施設等ごとに40%～100%の間で選択できます。90%及び100%を選択する場合は特約の付加が必要になります。

共済掛金

掛金の半分を国が負担します

共済掛金

=

共済金額
（補償額）

×

掛金率

×

$\frac{1}{2}$

- 施設1棟ごとに計算します。
- 付保割合・撤去費用・復旧費用が棟ごとに選択することができます。
- 農家単位で共済金額（補償額）の合計額が1億6,000万円までは国庫負担の対象となります。
- 復旧費用および付保割合追加特約は国庫負担の対象外です。
- 掛金率は過去の被害率を基本として算出し、農家ごとの損害率により危険段階を設定しているため、農家ごとに異なります。
- 掛金は、園芸施設の種類及び加入方式等により異なります。
- 加入する場合は、掛金の他に事務費賦課金が加わります。
- 農家負担掛金は、必要経費として所得の控除が受けられます。
- 被覆していない期間の土砂崩れや流出による損害も補償します。
- 未被覆期間の掛金を割り引きます。
- パイプハウスのうち、骨格の主要部分が31.8mm以上の径のパイプで作られている場合は掛金を割り引きます。（特定園芸施設、附帯施設、撤去費用、復旧費用）
- 生産団体等と農業共済組合が協定を締結して、一斉加入を行い、条件を満たした場合に掛金等を割り引きます。

共済金支払い対象となる災害



風水害 ひょう害



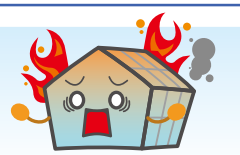
雪害



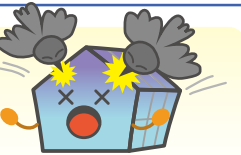
地震等 その他気象上の原因



航空機の墜落 車両の衝突



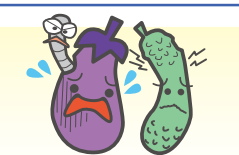
火災



鳥獣害



破裂及び爆発



病虫害（施設内農作物に加入した場合）

※自然災害ではない火災、自損事故等は被害の発生原因及び経過により、共済金の支払い対象とならないことがあります。



支払共済金



● 損害評価のしくみ

損害評価は原則 1 棟ごとに組合と連合会が合同で行います。

※加入時に希望された加入者に限り、全損した（原形を失っている）施設をスマートフォン等で撮影し、画像を組合へ提供いただくことで、組合の現地確認を省略することができます。

ただし、全損した棟以外に損害を受けた棟がある、提供画像では全損確認ができない場合等は、現地確認による損害評価となることがあります。



※農家の選択した額とは、1万円（3万円を選択した加入者のみ選択可）、3万円（又は共済価額の5%）、10万円、20万円、50万円、100万円のいずれかになります。

損害が発生したら

- 速やかに組合へ連絡願います。
- 大災害発生時は、被害棟を 1 棟ごとに確認するため訪問が遅れる場合がありますので、緊急に修理する必要がある場合には、その旨を組合へ連絡願います。
- 被害を受けたパイプやビニールは、損害評価が終了するまでは保管願います。
- 施設本体や農作物の撤去は、組合の損害評価後に行ってください。
- 施設内農作物の病虫害については、発生の兆候が見られたら速やかに連絡願います。
- 火災が発生した場合は、消防署へ通報願います。
- 車両の飛び込み等があった場合は、警察署へ通報願います。

支払対象にならないもの

- 1 棟ごとの損害額が農家の選択した額を超えない場合。
- 部材そのものに損害がない場合（ビニールのめくれ、ずれ落ち等）。
- 申告した被覆期間を経過して、被覆材に損害が発生した場合。（被覆材の影響により本体に損害が発生した場合も含む。）
- 人為的なもの（盗難、いたずら等）。
- 施設内農作物の連作障害、薬害、生理障害。
- 附帯施設の故障及び老朽化。
- 施設内農作物において、同じ病虫害が連続（前年又は前作）して発生した場合、もしくは 3 作連続して病虫害が発生した場合。
- 故意または重大な過失によって生じた損害。

● お願い

次に該当する場合には組合まで連絡願います。

- ①被害が発生した場合
- ②被覆期間を変更した場合
- ③被覆材を張りかえた場合
- ④施設を増改築、譲渡、解体した場合
- ⑤一部または全部を他保険等に加入した場合

※連絡がない場合や遅れた場合は共済金が支払われない場合があります。

補償期間内であれば全損になるまで何回でも補償します。

※1回の事故ごとに修復したものに限りです。

支払共済金の算出方法



※1…損害額は、被害額から残存物価額及び賠償金等を差し引いて得た額となります。

※2・3…自然消耗割合及び時価現存率は、経過期間により算出します。

損害評価時の耐用年数経過後における自然消耗割合は適用されません。

※4…分割割合は、作物ごと、病虫害ごとに防除の難易度等により、30%～70%の範囲で定められています。

- ・分割評価とは、施設の管理、土壌管理、肥培管理等が不十分で生じた病虫害の事故の際に、肥培管理等に起因する損害と共済事故による損害とを、分割して評価を行うことであり、共済事故による損害以外については共済金支払対象外となります。発生した病虫害により分割すべき割合が定められており、その割合を分割割合といいます。
- ・同じ病虫害が連続（前年又は前作）して発生した場合には、100%免責となり、異なる病虫害でも連続（前年又は前作）して発生した場合には、善後措置として20%の分割割合が加算されます。3作連続して病虫害が発生した場合は、3作目の年が100%免責となります。

特定園芸施設の種類

ガラス室 鉄骨 20型  主要部分がガラスで骨格材が鋼材又はアルミ	プラスチックハウス パイプ 40型  被覆材がビニールで骨格材がパイプ	プラスチックハウス 鉄骨下 50型  被覆材がビニールで骨格材が鋼材（主に幌型）	プラスチックハウス 鉄骨中・軟 61型  被覆材がビニールで骨格材が鋼材（主に屋根型）
プラスチックハウス 鉄骨中・硬 62型  被覆材が硬質フィルムで骨格材が鋼材（主に屋根型）	プラスチックハウス 鉄骨上 70型  被覆材が合成樹脂板で骨格材が鋼材	プラスチックハウス(雨よけ等) 80型  被覆材がビニールで主に屋根面のみ被覆	多目的 ネットハウス 90型  被覆材が多目的ネット

